

**松戸市都市公園整備活用推進委員会資料
(第15回)**

令和4年1月14日

松戸市街づくり部公園緑地課

目次

- 資料1 ワーキンググループの報告

- 資料2 21世紀の森と広場の将来像と
 パークマネジメントプランにおける取組

- 資料3 パークマネジメントの参考事例

ワーキンググループの報告

ワーキンググループの報告

【第3回】

- ・日 時：令和3年11月2日(火) 10:00~12:10
- ・場 所：zoomによるWEB会議
- ・出席者：田代委員長、赤羽副委員長、三島委員、竹内委員、安孫子委員、青柳委員、
富永委員
- ・事務局：街づくり部 齋藤審議監
公園緑地課 布施課長、竹内補佐、清水主任主事
21世紀の森と広場管理事務所 白石所長、大塚補佐、石井主事
- ・資 料：第3回ワーキンググループ資料

○議事概要

1. 新たなマネジメントシステムの検討について

これまでの審議内容の整理、スケジュールの見直し、答申内容のイメージについて、資料に沿って事務局より説明があった。

<事務局からの説明>

○これまでの審議内容の整理

- ・21世紀の森と広場パークマネジメントプランの基本的方向性(令和2年11月)と諮問事項(令和3年1月)の内容整理
- ・令和3年1月以降の審議内容の整理

○スケジュールの見直し

- ・第14回委員会でのご意見を踏まえてスケジュールの見直し
(諮問事項(2)に関する答申を令和3年12月から令和4年6月に変更)

○答申内容のイメージ

- ・事務局が求める答申の内容を委員と共有する。

<ワーキンググループで出された主な質問、意見>

- ・設置管理許可制度について詳しく知りたい。
→今後詳細な資料を作成する。
- ・新たな管理運営体制を担う事業者を選定する方法や重視すべき内容について、答申の中に盛り込むことになるのか。
→今後議論が深まれば、新たな管理運営体制に移行するにあたって留意すべき事項として、ご助言をいただければありがたい。

意見を踏まえ、次回のワーキンググループにおいて引き続き審議することとなった。

2. マーケットサウンディング調査の結果について
資料に沿って事務局より報告があった。

<ワーキンググループで出された主な質問、意見>

- ・コロナ禍で住宅地内のそれほど公園施設が無い都市公園と丘陵公園で利用者が増加しており、日常利用を屋外空間に求められている。このため、民間事業者の協力を得ながら、自治体の福祉部署や教育部署とも連携し、日常を公園に持ち込むことが、本公園においても参考になるのではないか。
- ・行政が考えるべきハード面として、本公園を貫く形で計画されている都市計画道路により、公園機能が大きく変化することを確認する必要がある。
→南北を貫く1路線は整備済みだが、北側と南側で東西を貫く2路線が未整備である。
整備済みの路線は橋の下を公園として活用しているが、未整備の2路線は、どちらも事業化の見込みはたっていない。
- ・千駄堀池が貯留浸透機能も有しているなど、大きな観点からグリーンインフラの考えを見せていき、これを受けて民間事業者から具体的なアイデアを提示してもらうことが求められる。
- ・公共施設の管理運営に対しては、長期的な視点から行政が考えるべきである。新たな管理運営体制に移行すれば全ての課題が解決すると勘違いしてはならず、官民の役割分担を明確にし、得意な人に担ってもらう部分と、行政が長期的な視点で取り組み続けなければならない部分を、明確にすることが重要である。
- ・行政としての積み重ねが長年あるものの、行政は得意な部分がかかっていない所もある。

【第4回】

- ・日 時：令和3年12月7日(火) 10:00~12:10
- ・場 所：zoomによるWEB会議
- ・出席者：田代委員長、三島委員、佐藤委員、安孫子委員、青柳委員、富永委員
- ・事務局：街づくり部 齋藤審議監
公園緑地課 布施課長、竹内補佐、清水主任主事
21世紀の森と広場管理事務所 白石所長、大塚補佐、石井主事
- ・資 料：第4回ワーキンググループ資料

○議事概要

1. パークマネジメントプランの検討について

資料に沿って事務局より説明があり、審議を行った。

<ワーキンググループで出された主な質問、意見>

- ・将来像と方向性は良くまとまっている。マネジメントの部分で、体制を構築すると明記されているのは分かりやすいが、民間事業者が入った場合にどの様になるかが課題となる。西東京市では、事業者選定において中間支援組織が事業者の中に入ることを条件付けており、これが有効に機能している。
→西東京市の事例については、参考事例として取り入れていきたい。
- ・民間の協力を得た場合、どう評価していくかを、PDCAでチェックしていく必要がある。
- ・自然観察舎が存在することは本公園の特徴であり、これをよりPRし活用する必要がある。このことは、方向性の魅力を高める所に記載されているが、さらに自然体験、生物多様性の向上、地域の生態系を育むなどの言葉を示した方が良いと思う。
- ・パークマネジメントプランをどう使いこなし、市民にアピール・共有し、民間事業者や地域と協働していくか。そのプロセスやアイデアはどうすべきか。これを見た人がパークマネジメントに参加できることを実感できる様なプロセスづくりの記載があってもいいのではないか。
- ・新しい感覚がもう少しあった方が良いと思う。本公園自体が巨大なグリーンインフラであり、それを未来に繋げていくという重みづけが必要だと感じた。また、現在の案にはSDGsについての記載がない。健康づくりや社会教育、コミュニティなど緑だけではない価値は、SDGsの精神とフィットするのではないか。
- ・健康は一つの柱になると思うが、どの部分が健康のために楽しめる場所となるかが分かりづらい。

→現在パークマネジメントプランの作成と並行して、緑の基本計画改定作業を進めている。この中で「緑と人の生活・暮らし」の繋がり、効果、双方向的に緑と暮らしに何かできるかを整理し記載している。この考えをパークマネジメントプランと相関して、緑と暮らしの関係を表現したいと考えている。

- ・八王子でのヘルシーパークプロジェクトでは、健全な自然生態系を育むことにより、人間の身体と心の健康づくりを目指している。この考え方は本公園に合致するもので、地域の生態系を健全にすることで、そこで人々が様々な活動を行い、心も体も健康になる意味合いで捉えれば良いのではないかと考えている。また、高齢化社会の中で、身近な公園をどう使うかが課題でありチャレンジすべき事項でもある。一方、メンタルヘルスの面でも、緑化で改善される研究が進展している。
- ・緑と親しみながら様々な活動ができる貴重な場所がある事をうまく伝える表現ができれば良いかと思う。強調するなど表現の仕方も考える必要があるかもしれない。
- ・ヘルシーパークという言葉が記載されているが、この様な発想があっても、魅力的な表現が見つからなければ、うまく伝わらないだろう。現在本公園で行われている活動は内容的に悪くないと思うが、アピール力が不足している様に感じる。
- ・ステークホルダーの記載内容の見直しが必要である。市民・市民団体、企業（専門家）、行政だけではなく、教育機関との関係、市民団体とは別の団体（例えば観光協会）との関係、NPO との関係、事業所との関係、病院など医療機関との関係などが考えられる。
→事務局で再検討し次回委員会で提示する。
- ・沢山の地域のステークホルダーが公園を支えており、色々な方々の力を集めるのが新しい融合組織である。また、ニーズを引き出して公園を発展させていくための組織が新しい融合組織であるという方向性をうまく表現する必要がある。

意見を踏まえ、次回の委員会において引き続き審議することとなった。

2. 民間事業者等との連携体制の検討について

資料に沿って、事務局より都市公園の官民連携事業手法の説明があった。

21世紀の森と広場の将来像と パークマネジメントプランにおける取組

21世紀の森と広場の将来像

21世紀の森と広場の現状等を踏まえて、パークマネジメントプランの実行により目指す「新たな21世紀の森と広場」を以下のように整理しました。

○豊かなみどりを次世代につなぐ

21世紀の森と広場をつくる目的でもあった豊かなみどりは、構想が始まった頃から数えて40年以上を経て、**公園そのものが巨大なグリーンインフラと言えるまでに大きく成長しています**。この豊かなみどりを、市民が誇るみんなの財産として、次の世代につないでいきます。

○21世紀の森と広場を進化させる

新たな感染症の拡大を契機としてニューノーマルという考え方が広がりつつあるなど、社会や公園を取り巻く環境が大きく変化しています。ライフスタイルの変化とともに21世紀の森と広場も進化し、新しいライフスタイルを発信していきます。

○地域とともに地域の課題を解決する

21世紀の森と広場は、**環境問題が深刻化する昭和50年代において、自然環境が市民生活を豊かにするものにとらえ、次代に継承することを目指して計画されました**。これはSDGsの理念とも合致するもので、21世紀の森と広場の進化に合わせて地域が持つ機能と連携することで、**社会課題や地域課題の解決(地域のSDGs) 達成を目指します**。

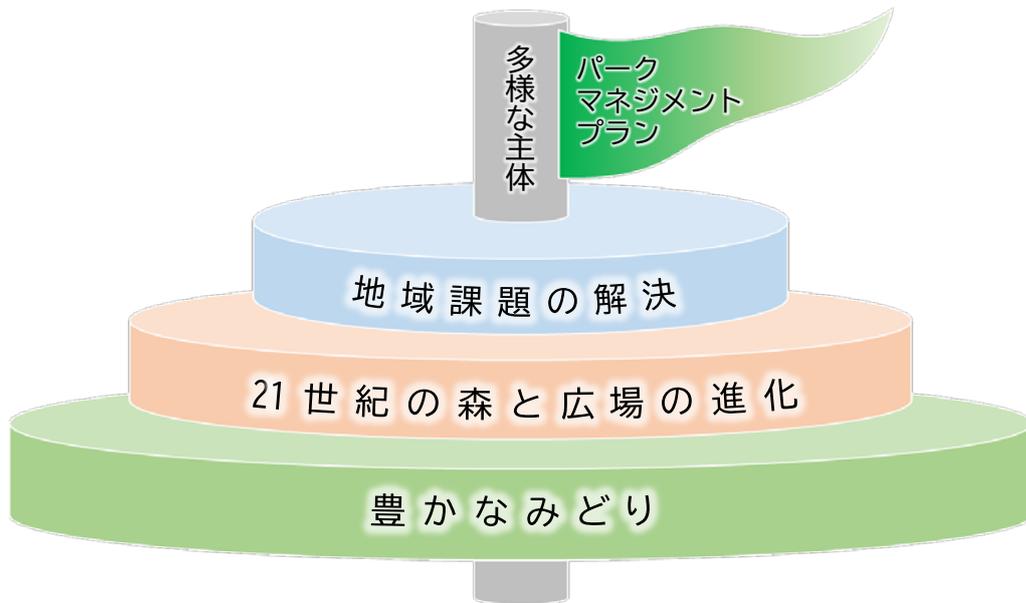
○みんながゆるやかにマネジメントに関わる

公園に関わる多様な主体が互いの立場を尊重してゆるやかに結びつき、それぞれの得意分野で活躍できるような、実効性、持続性の高い新たなマネジメントシステムを構築します。パークマネジメントプランに基づき、多様な主体のみんながゆるやかにマネジメントに関わることで、21世紀の森と広場と地域とがそれぞれの価値と魅力を高めあう相乗効果を生みだします。この効果を市域全体に波及させ、市民がみどりと暮らす豊かさを実感できるまちにします。

【パークマネジメントプランと21世紀の森と広場の将来像の関係】

パークマネジメントプランに基づき、21世紀の森と広場に関わる多様な主体が、豊かなみどりをベースにして、21世紀の森と広場を進化させ、地域の課題を解決していきます。

パークマネジメントプランと21世紀の森と広場の将来像の関係を表すものとして、SDGsの概念を構造的に表したウェディングケーキモデル^{*}を参考としました。



【SDGsのウェディングケーキモデル】

SDGsの17の目標をウェディングケーキの形に模して説明したモデルで、地球環境の基盤があることで、私たち人類社会、そして経済が成り立っていることを表しています。



パークマネジメントプランにおける取組の方向性

「新たな21世紀の森と広場」の実現に向けて、3つの取り組みの柱を設定し、以下の取り組みを実行します。

21世紀の森と広場の魅力を高めます

- 1) みどりを活かし、みどりに親しむ場を創出します
- 2) 一日過ごしたくなる魅力的な空間と快適な施設を創出します
- 3) 歴史を感じる学びの場を提供します
- 4) 魅力を伝える情報を充実し効率的に発信します



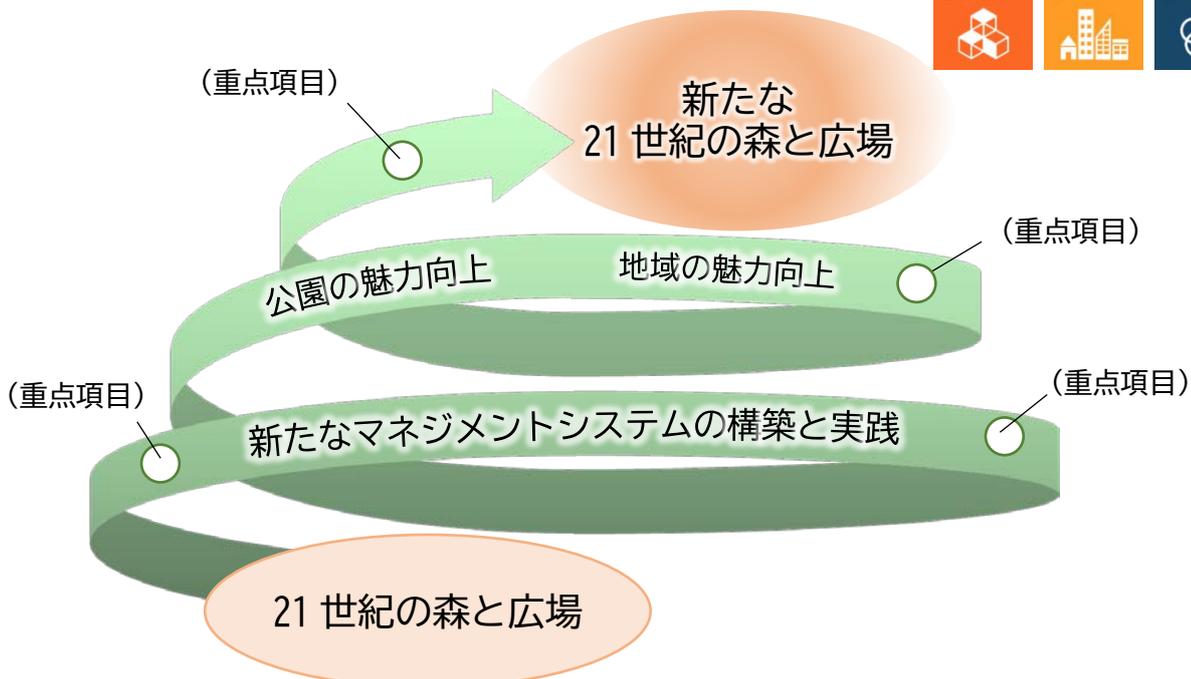
公園の多様な機能で地域の魅力を高めます

- 1) 豊かで健康なみどり(ヘルシーグリーン)を育てます
- 2) 健康づくりの拠点(ヘルシーパーク)を構築します
- 3) 地域づくり活動の拠点を形成します
- 4) 地域の農的資源を利活用します
- 5) 生涯学習の活動の場を創出します
- 6) 生命と財産を保全するレジリエントな機能を構築します



新しいマネジメントシステムを構築し実践します

- 1) 従来の管理運営システムを見直します
- 2) 多様な主体が協働できる組織や体制を構築し、実践します



重点項目に関連する写真、イラスト

重点項目に関連する写真、イラスト

重点項目に関連する写真、イラスト

重点項目に関連する写真、イラスト

.....
.....
ができます

.....
.....
しています

修正中

重点項目に関連する写真、イラスト

重点項目に関連する写真、イラスト

重点項目に関連する写真、イラスト

重点項目に関連する写真、イラスト

21世紀の森と広場の魅力を高めます

1) みどりを活かし、みどりに親しむ場を創出します

これまで守り育ててきた豊かなみどりをベースとして、さらなる保全・活用と生物多様性を向上させます。

- ・ 貴重な動植物や生態系の保全と生物多様性の向上
- ・ **自然教育や生物多様性の向上に向けた取り組みの拠点となる自然観察舎の活用**
- ・ 樹林地の活用などみどりを身近に感じてもらうためのアクティビティやワークショップの実施
- ・ 次世代のみどりの担い手となる人材の育成、環境教育、普及啓発



豊かなみどり



貴重な植物(キンラン)



自然観察舎での野鳥観察

2) 一日過ごしたくなる魅力的な空間と快適な施設を創出します

誰もがワクワクする魅力的な空間を創出します。

老朽化した施設の改修により誰もが安全・快適に利用できる設備を導入するなど、施設のサービス水準を向上させます。

- ・ 自然を活かした創造的なあそびの場と仕組みの創出
- ・ 「まだ帰りたくない」、「また来たい」と思わせる空間の創出
- ・ みどりや花を活かした景観の創出
- ・ 様々な利用者ニーズに対応できる**バリアフリー・ユニバーサルデザイン**の導入
- ・ 老朽化した施設の改築、更新による安全・快適に利用できる公園への改善



新たな遊び空間「あそびのすみか」



千駄堀池テラス



千駄堀池沿いの桜



障がい者用トイレの整備状況



おむつ交換台の設置状況

3) 歴史を感じる学びの場を創出します

公園内の各所から縄文時代の住居跡や土器などが出土している歴史を活かし、地域の歴史に触れられる場、学びの場を創出します。

- ・市立博物館との連携による公園内での展示やワークショップの実施
- ・公園内に復元されている竪穴式住居の活用



市立博物館展示状況



縄文の森の竪穴式住居(復元)

4) 魅力を伝える情報を充実し効果的に発信します

誰にでも分かりやすく効果的に情報を提供します。

- ・誰にでも分かりやすい情報発信（ユニバーサルデザイン）
- ・利用者層（ターゲット）に合わせた多様な手段の活用
- ・利用者による情報発信を促す仕組みの創出



21世紀の森と広場 HP



SNSによる情報発信



インターネットプレスリリース

【参考】公園の魅力を高める取り組みの事例

多様な機能で地域の魅力を高めます

1) 豊かで健康なみどり(ヘルシーグリーン)を育てます

21世紀の森と広場のみどりを地域のみどりと連坦させ、広がりをもった健康なみどりを育てていきます。

- ・みどり資源の利活用
- ・地域の環境保全活動団体や大学等の活動との連携によるみどりの健康づくり活動の実施



みどり資源の利活用



里山保全活動団体との連携



2) 健康づくりの拠点(ヘルシーパーク)を構築します

地域の健康づくりの拠点として、21世紀の森と広場における健康増進の取り組みを推進します。

- ・交通アクセスの不自由さを活かした徒歩でも来園したくなる健康増進プログラムの導入
- ・大学や医療施設等と連携したみどりによる健康づくりの実証実験の実施



医療施設や福祉施設と連携した健康づくりのイメージ



体を動かすプログラムのイメージ

3) 地域づくり活動の拠点を形成します

多世代・多文化共創による地域づくりと、多様な市民が相互に柔軟に連携する機能を十分に発揮できる市民交流拠点を形成します。

- ・コミュニティ活動活性化や子育て世帯の交流の場の形成支援
- ・隣接地域施設や店舗の連携



地域と連携したイベント



地元の店舗との連携



4) 地域の農的資源を利活用します

公園内の農的空間や飲食施設と連携し、地域の農的資源を活用します。

- ・地域の農業従事者と連携した農体験の実施
- ・地産農産物を活用した飲食メニューの展開



農体験（左から 餅つき・田植え・農作業）

5) 生涯学習の活動の場を創出します

21世紀の森と広場に生涯学習の場や教育活動の場を創出します。

- ・教育委員会やスカウト活動団体※との連携(※いわゆるボーイスカウトやガールスカウト)
- ・小中学校、博物館、森のホール 21 等の教育文化施設との連携
- ・関係するアクティビティの人材の育成



生涯学習の場や教育活動の場の状況

6) 生命と財産を保全するレジリエントな機能を構築します

防災機能を中心とし、様々な社会機能の持続性を実現するレジリエントな機能を確立します。

- ・地域の防災拠点となる公園の機能強化
- ・防災力を高めるための地域との一体的な連携
- ・業務継続計画の策定



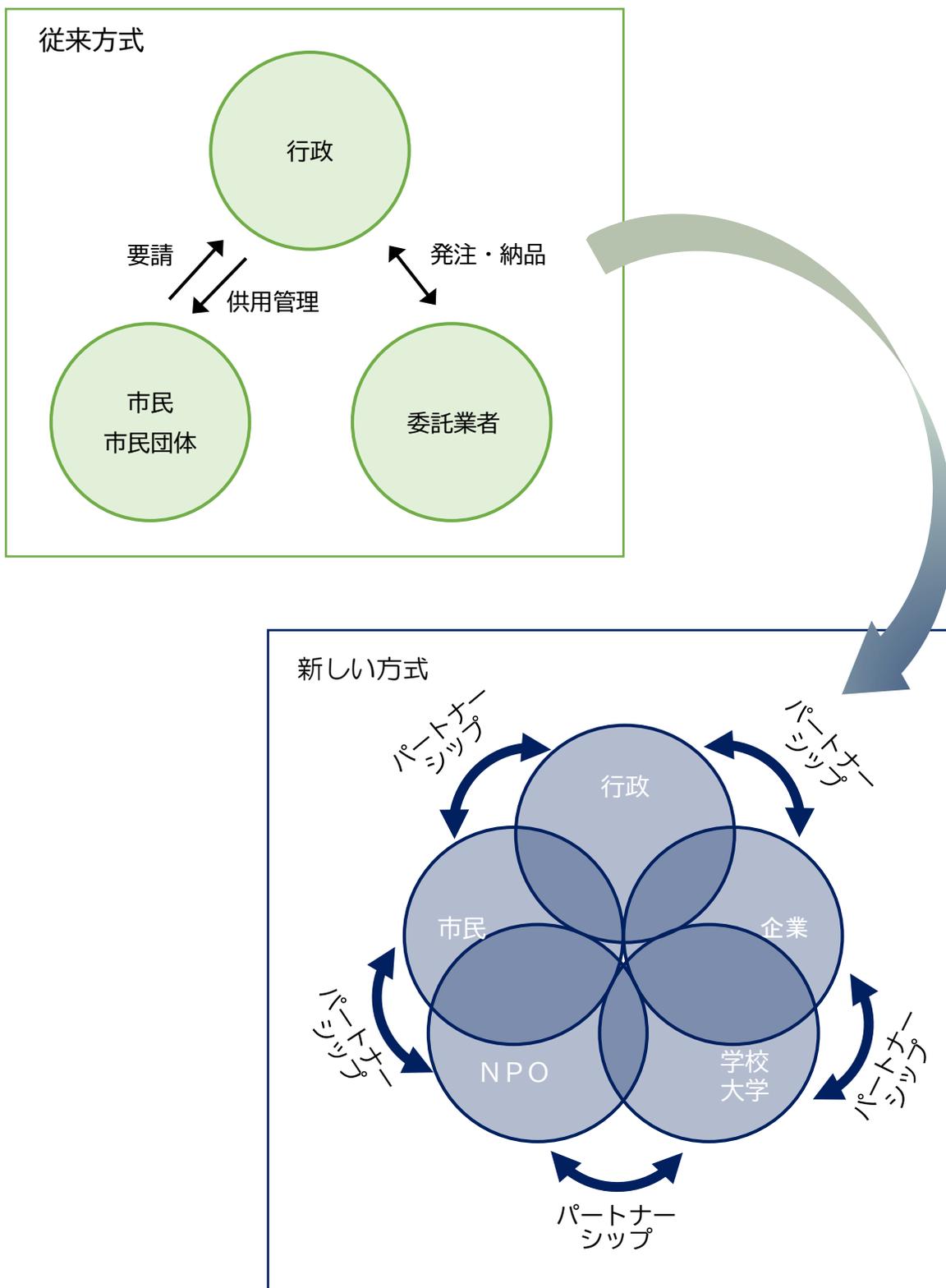
21世紀の森と広場を用いた防災訓練のイメージ

【参考】地域の魅力を高める取り組みの事例

新しいマネジメントシステムを構築し実践します

1) 従来の管理運営システムを見直します

従来の行政主導管理から、多様な主体のみんながパートナーシップで連携する新しい方式へ転換します。

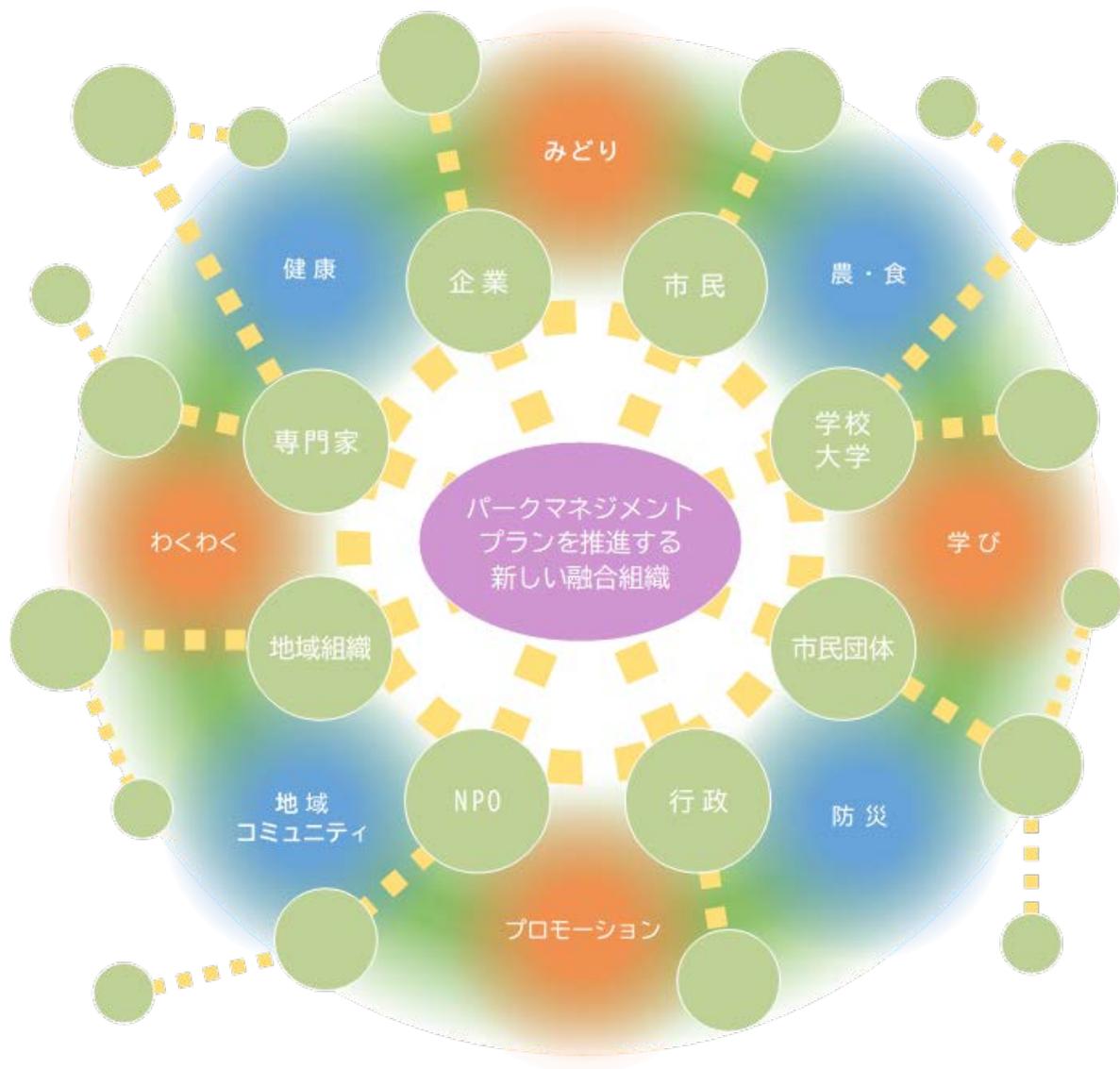


2) 多様な主体が協働できる組織や体制を構築し、実践します

多様な主体が協働できる組織や体制による新しいマネジメントシステムを構築し、それぞれの得意分野を活かして実践します。

【新しいマネジメントシステムのイメージ】

新しい融合組織を構成する各主体は、互いに連携し、また、それぞれの主体が持つネットワークを活かしてパークマネジメントプランを推進します。また、将来的にはネットワークでつながる組織が構成主体として参画し、融合組織が発展的に拡大していくことも考えられます。



【参考】 マネジメントの取り組み事例

【参考】 マネジメントの取り組み事例

パークマネジメントの参考事例

■“ヘルシーパークス・ヘルシーピープル”（パークス・ビクトリア：オーストラリア）

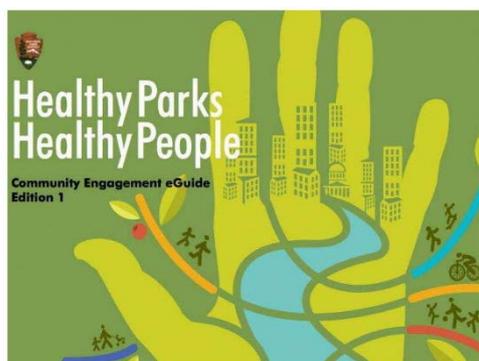
このスローガンは、オーストラリア・ビクトリア州で1999年に始まる。

当時ビクトリア州では、公共部門改革の原則（①結果責任と説明責任、②顧客重視、③小さな官僚機構、④市場メカニズムの導入、⑤公的機関の専門的かつ実務的な経営）に基づく政策が打ち出され、その一環として、公園部門においても二つの公園局（国立公園局、都市公園を管理するメルボルン公園・水路局）が合併し、「パークス・ビクトリア」として再編されている。パークス・ビクトリアは、メルボルンの都市公園と、国及び州の公園・保護地区等の400万ヘクタールを管理しており、年間来訪者は95百万人を数える。

パークス・ビクトリアは、公園の利用を通じて人々を健康に導くコンセプト「ヘルシーパークス・ヘルシーピープル」を掲げ、公園が蓄積してきた資源を少子高齢化等の課題解決に向けて活用する取り組みを進めており、現在、この運動は世界規模に広がっている。

ヘルシーパークス・ヘルシーピープルの創造にあたっては、人々が価値を共有することが求められる。さらに、共通の基盤を築くためには、公園が人々に提供するものの価値を注意深く表現することが重要となる。これらの価値観を活用することで、効果的なパートナーシップと地域社会の参画を促進し、より健康的な経験を全員にもたらすとともに、その過程において次世代の公園管理者を育成することができる。

（出典：浦添市公園まちづくり研究会「経塚公園」活用基本方針と公民連携部会・ワーキング 一部加筆修正）

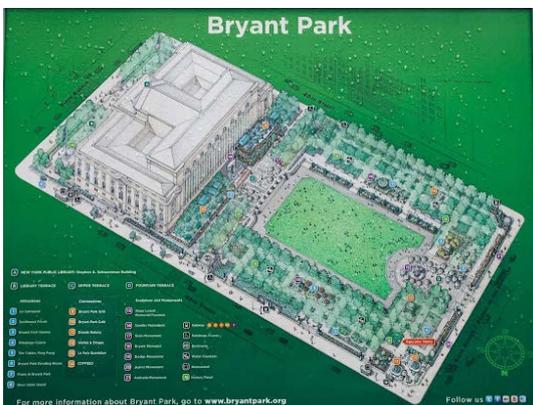


■ (ブライアントパーク：アメリカ、ニューヨーク)

1970年代のブライアントパークは、一般の人が近寄りたがたい荒廃した公園であった。この状況を改善するため、1980年に BID 制度*により、市と周辺のビルオーナーによって BPRC (Bryant Park Restoration Corporation) が設立された。BPRC は公園の再生に取り組み、1992年に公園を改修した結果、今では年間1200万人が訪れる公園として生まれ変わっている。なお、BPRC は2006年に BPC (Bryant Park Corporation) と改称し現在に至っている。

* Business Improvement District : 民間が行うエリアマネジメント活動の資金を自治体が再配分し、公共空間の管理も一体的に任せて街づくりを推進する制度

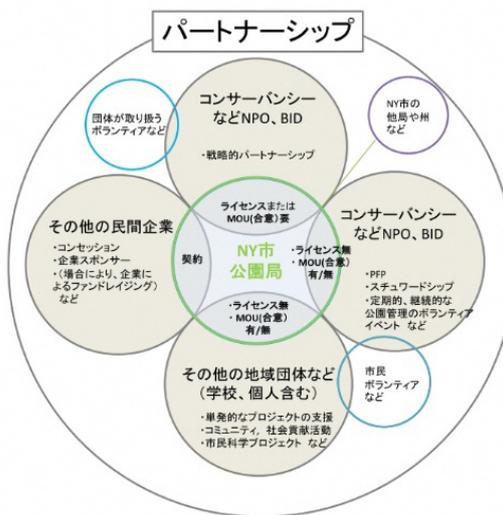
(出典：第8回 米ブライアントパークで成功した公園活性化と BID による運営のポイント)



ブライアントパークはどのようにして憩いの場になったのか。その大きな要因の一つが、公民連携による公園管理であり、その協働を可能にしているのが、市公園局のパートナーシップである。パートナーシップは公民連携のひとつの形態であり、協力関係にある団体は規模や活動内容により異なるが、如何なる団体も公園内での活動には市公園局の規定に従う必要がある。

市全体で徹底的な街の再活性化と公園の維持管理に努める中、公園改善を求める市民による地域グループが形成され、NPO のコンサーバンシー (Conservancy) が誕生した。コンサーバンシーの多くは民間の申請により発足し、特定の公園運営を目的に、市から毎年管理委託費を受け取り、資金集め、企業や市民からの寄付、公園内での飲食店やプログラムによる収入などを得て公園運営を行っている。

(出典：第9回 米国 NY 市のユニークな公民連携による公園管理 (その1) 一部加筆修正)



■西東京いこいの森公園（東京、西東京市）

西東京いこいの森公園は、約 4.4 ha の市内最大規模の市立公園である。南西側には、東大演習林が隣接しており、みどり豊かな場所にある。散策や四季折々の自然観察、レクリエーションなど憩いの場として、多くの市民に利用されている。公園の指定管理者は、西東京の公園・西武パートナーズ（西武緑化管理株式会社、NPO 法人 NPO birth、株式会社尾林造園）である。

○市民協働の推進内容

- ・花壇とガーデンの冬支度：「西東京花の会」の冬の活動を紹介。
- ・ハーブガーデン冬養生



- ・泉小わくわく DAY を開催（泉小わくわく公園の会、地域のボランティア）
- ・愛犬のスマホ写真教室を開催（いこいの森公園の原っぱ広場）

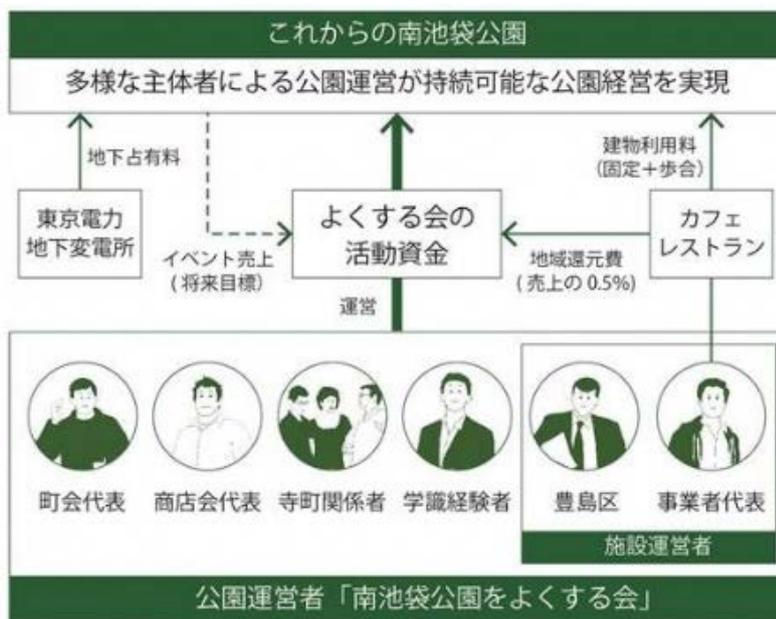


（出典：西東京いこいの森公園ホームページ）

■南池袋を良くする会（東京、豊島区）

公園に収益施設を誘致し、それを賑わいの核とする、いまはやりの都市公園である。区が管理する公園として地域との関係性を重視し、価値を持続させる仕組みを整えた点でも、先駆性を持つ。この仕組みは、「南池袋公園をよくする会」と名付けられ、南池袋公園の運営組織（地元町会、商店会の代表者、隣接する寺町関係者、学識経験者、区、カフェレストランの事業者代表の6者）により構成され、2016年4月に正式に発足している。

（出典：南池袋を良くする会ホームページ）



地域貢献や地域イベント実施など、能動的で開放的な公園運営

この公園は常駐管理を実施しており（区が管理する公園としては異例の措置）、それを財政上可能としたのが、公園施設の貸床部分をカフェレストランの使用料や公園の地下を変電所として占用する東京電力からの占用料である。それらの収入を南池袋公園の管理経費に充てている。区はこの予算を基に、朝8時から夜10時までの常駐管理業務を西武造園に委託している。



